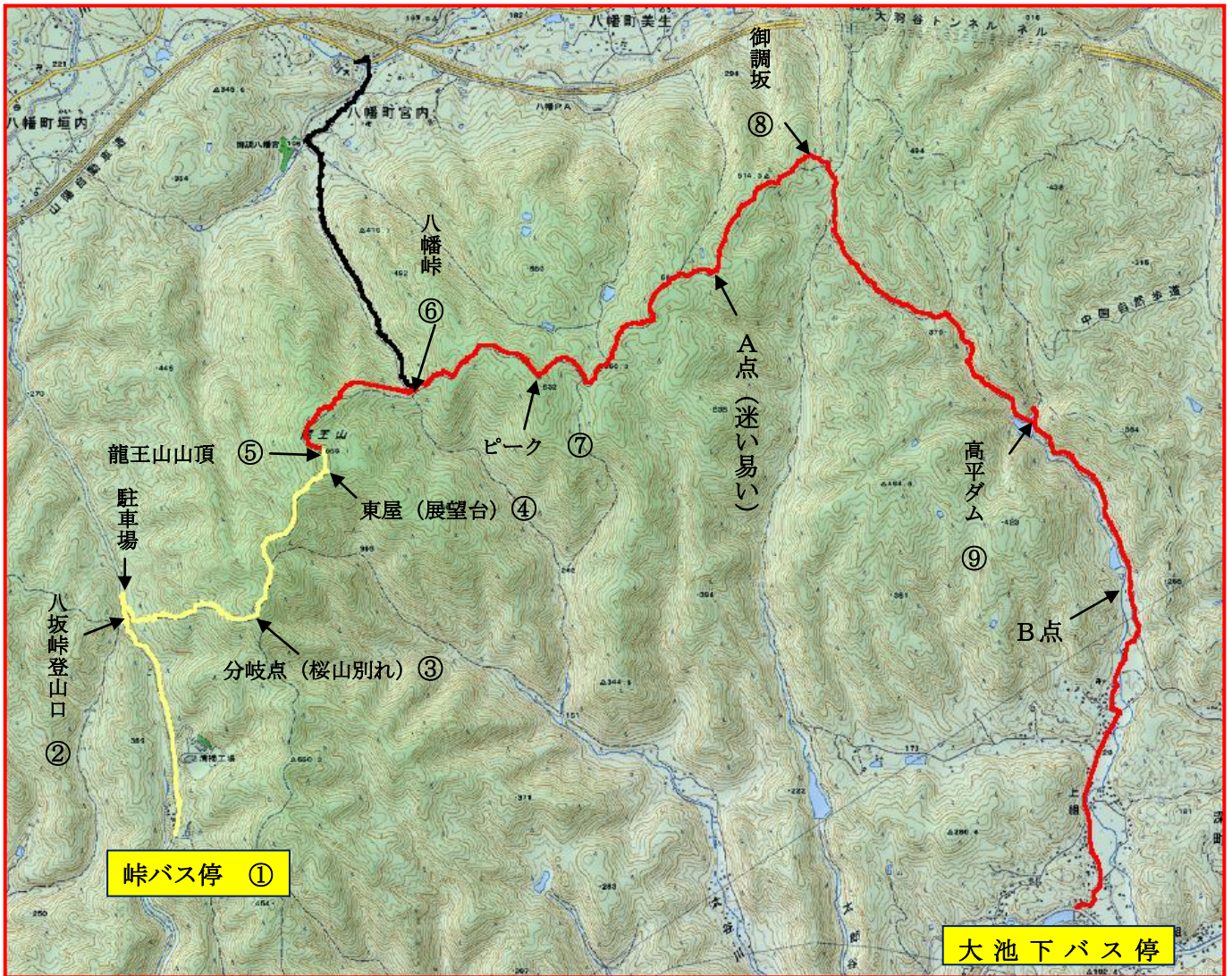


龍王山 (665m) (八幡町)

中国自然歩道を中心に快適に歩く

山頂へ向かうルートは主に3つ。先ずAコース(黄色で示す)。これが最短である。次いでBコース(黒色)。C(赤色)が最も長い。Bコースについては、縦走コースとして紹介している「龍王山から南方尾根縦走」を参照方。ここでは、Aコースから登り、Cコースを下る場合を紹介する。歩行距離は約14Km、所要時間は6時間から7時間。累積標高差は+710m、マイナス890m。

三原駅からバスで向かう場合は、「峠バス停」①で下車。車道を約1・2Kmバスの進行方向へ歩くと、右手に八坂峠登山口(標識は「御調八幡宮入口」となっている)②がある。車で行く場合は、この登山口の少し向こうに10台は止められる駐車場がある。この登山口から龍王山を経由して御調八幡宮までは、中国自然歩道で繋がっている。道はよく整備されて、階段も沢山設置されている。相当急な坂道なので、マイペースで登ろう。約30分も登ると視界が開け、振り返ると「大峰山」や三原市街や本郷町も見える。そこから約5分で分岐点③に着く。ここは標識に従い左へ進む。そこから20分弱でピークに達する。そこから急な坂道に注意して下り、少し平坦道を通ると再び登りとなり約20分弱で東屋(展望台)④に着く。ここからの眺めはすばらしく、三原市街・瀬戸内海・みはらし連山等が望める。ここでゆっくり景色を楽しもう。龍王山(国土地理院ではこの字であるが、山頂の標識には「竜王山」とある)の頂上⑤へは5分も歩くと着く。ここからの眺望は全くないが、当地では珍しい一等三角点がある。急な坂を下る事約15分で八幡峠⑥に着く(途中で奥の院への標識があるが、関心があれば往復約10分である)。ここを左折すると、御調八幡宮へ下るBコースである。右折する道もあるが、これは非常に荒れており間違えて下りない事。我々はここを直進し、しばらく中国自然歩道から外れて、御調坂(辻堂)・深町へのルートをとる。約25分も登りを続けると、ピーク(約630m)⑦に達する。そこからは、途中多少のアップ・ダウンを繰り返しながら下って行く。約90分で御調坂(みとさか)⑧に到着する。この間に間違いやすい脇道が数か所あるので注意する事。特にA点は要注意。鋭角に曲がるが、うっかりすると直進してしまう。又、一か所「まき道」もある。この御調坂から「高平ダム」までは再び中国自然歩道となり、下りが続く。溪流を右に見ながら進むと、「落石」「鯨石」「亀石」と続き、「彭祖(ほうそ)の滝」への分岐が現れる。片道125mなので、ぜひ寄ってみよう。見事な滝を楽しめる。元に戻り、更に下ると奇岩「盗人の釜」が現れ、「桜滝」(乾季には水が無い)分岐そして「高平ダム」⑨に着く。この位置に、「中国自然歩道」の大きな案内板がある。ここまで約70分。自然歩道は更に尾道の方へ続くが、我々は、自然歩道から分かれて、右手に進み、舗装された道を、道なりに進み「大池下バス停」⑩を目指す。約50分で県道55号線にあるバス停に着く。



ここで紹介したコース

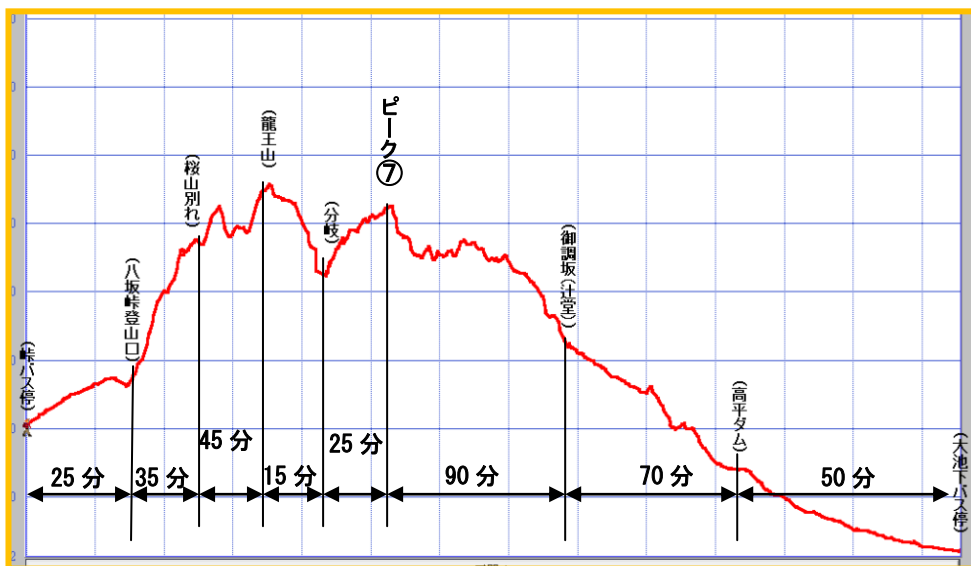
は全般的に樹林帯を歩くので、出発からB点までは、一部を除き日陰となる。そして、樹木に阻まれ、ほとんど景色を楽しむ事が出来ない(本文中で紹介した箇所を除き)。尚、B点以降は山道から一般道へ出るので、直射日光を受ける。

アクセス

「峠バス停」・・・三原駅西口(隆景広場)から中国バスの「久井・甲山方面行き」に乗車
 「大池下バス停」・・・中国バス「三原駅・久井・甲山方面行き」で三原駅へ

チェックポイント

以下の写真を参照されたい。



八坂峠登山口 ②



八坂峠登山口駐車場



分岐点 ③



東屋(展望台) ④



八幡峠 ⑥



御調坂分岐点 ⑧



←高平ダムにある分岐点⑨。
 中国自然歩道の大きな案内板がある。
 県道55号線に出ると、すぐ目の前が大池下バス停⑩である。→

